

森からのおくりもの

今まで採食していなかった

樹木にもシカ被害が

「公開報告会」で報告

六月一日(日)、局大会議室において「蝕まれる三嶺の森と山々―三嶺・剣山地
区シカ被害状況と対策「公開報告会」(五
一) (主催 三嶺の森をまもるみんなの会
共催 四国森林管理局)が開催されました。
概況報告に続き、自治体、研究機関等
から五課題の報告があり、そのうち、指
導普及課 山崎企画管(自然再生)が「平
成二三年度四国山地縁の回廊(剣山地区)
におけるニホンシカの生息環境等」と題
して報告しました。

特に、樹木の被害状況(調査対象樹木
・胸高直径4cm以上)は、シカの嗜好性
が顕著に見て取れる結果となったが、餌
環境が悪化するのに従い、今まで採食し
ていなかった種も被害を受けるケースが
見受けられる等の報告がありました。

今後とも、四国四県の自治体、研究機
関等が情報を共有し専門の見地から解析
等を行い、四国全体としてより効果的か
つ計画的なシカ被害対策及び生態系の維
持に取り組む必要があります。

24 技術開発の紹介

ヒノキ精油に

低燃費効果が

6月12日付けの高知新聞朝刊に、ヒノキから抽出した精油を軽油に少量加えると、燃費が約20%向上する等の記事(別添 3)が掲載されました。実証実験を行ったのは、高知県安芸郡の自動車板金会社で実験では、路線バスを使用し、満タンにした燃料タンクに千分の1の量の精油を添加。結果、添加した車両は、無添加車両に比べ、約1.2倍燃費が向上した上に、すすや窒素酸化物などを半分に抑えるなど環境にも良いことが実証されました。ガソリンも同様の効果があるとのこと。

保育作業の省力化による森林育成技術の確立

目的 一、除伐作業の省力化による低コスト育成技術

二、下刈から除伐までをトータル的にみた低コスト育成技術を確立。

試験地 一、①嶺北署(奥南川山二六八三林小班) ②安芸署(野川山

一〇二五一林小班) ③高知中部署(猪野々山一二は二林小班)

二、①嶺北署(桐ノサコ山二二三三は林小班) ②四万十署(松葉川山

三〇〇六林小班)

試験内容 一、無除伐区と除伐区の成長比較を標高の

異なる三カ所で実施。

二、異なる下刈回数に、除伐の有無を組み合わせた

保育作業の試験を二カ所で実施。

開発期間 平成一八年度～平成三一年度

詳細は 局HP 森林管理局の概要

森林技術センターを参照。

(写真は安芸署 野川山試験地全景)



お知らせ

- ・7月17日(火)～18日(水)に担当者(ふれあい係長等)会議を局で開催。
- ・2面に、愛媛署森林保護員さんからの情報も掲載。

愛媛署 森林保護員さんからの情報

植生のない植物の侵入報告

H24.06.17

石鎚山にミヤマオダマキ？



6月17日ロープウェイルートにて石鎚山弥山の石鎚神社頂上山荘に着くと山荘の人見さんより入口に青紫の花が咲いているが名前を教えて欲しいと言われました、

見るとオダマキ（ミヤマオダマキの園芸種）がミヤマオダマキと思われましたので下山後調べますと中部以北に生育するミヤマオダマキと分かりました。石鎚山系に生育していない植物ですので処分するのが良いと人見さんには伝えました。

多くの登山者が行き来するこの弥山の広場の岩場足下に、靴に種子が付いて運ばれてきたと思われるが原因は分かりません。

左の写真は、石鎚山頂上山荘前広場入口岩場に咲くミヤマオダマキです。

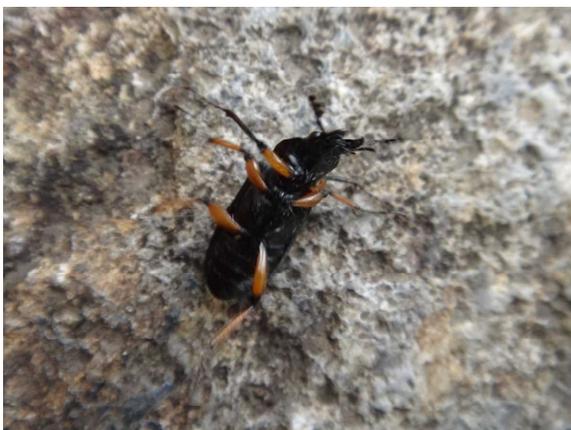
タカネルリクワガタを確認

H24.06.18



珍しい新種の「タカネルリクワガタ」(左の上下写真)を見付けました。

6月17日ロープウェイルートで石鎚山頂へ向かう途中、三の鎖巻道（標高1920m付近）の水たまりに落ちて、もがいているルリ色のクワガタムシ（体長約1cm）を永井さんが見付けました。確認するとタカネルリクワガタでしたので写真撮影後森林内に戻しました。その時の写真です。



環境省は、日本に生息する「タカネルリクワガタ」を、種の保存法に基づく緊急指定種に指定すると発表した。期間は3月26日から2011年3月25日までの3年間で、個体を捕獲、殺傷、譲渡するなどの行為が規制される。

タカネルリクワガタは2007年11月に記載されたばかりのクワガタムシの新種。これまでの調査からは、分布が確認されているのは非常に限られた地点にとどまり、個体数もごく限られたものである可能性が高く、希少だという（環境省の報道発表資料より）。

愛媛森林管理署保護員（永井、別宮）